

「自分の命は自分で守ろう」

さぬき市立石田小学校 4年 村井 音穂さん

夏休みの終わりのころ、いつもの様にニュースを見ていると、すごくひさんな映像が映っていました。家や車が流され水や泥木などが町中を埋めていました。私はしばらくそのニュースを真剣に見ました。

八月二十日夜中、広島県広島市で集中ごう雨により土砂災害が発生し、そのために行方不明になっている人や亡くなった人がいる事を知りました。まず私は、広島県がどこにあるのか気になり、お母さんに聞いてみるとそんなに遠くはなかったのでびっくりしました。私は香川県に住んでいるけどいままでこんなすごい経験をしたことはありません。テレビの映像もすごかったけど、なかでも十一才と二才の男の子の兄弟が亡くなってしまい、お母さんや友達が泣きながら告別式をしているのがとても悲しかったです。年が私と弟と同じくらいでまるで自分たちのように思ったからです。ニュースを見ていると今回の土砂災害の被災のひどさがよくわかりました。

私の住んでいる香川県は、晴れの日が多く台風が来てもあまりけい報が出ません。夏休みに入る前に、台風のため大雨けい報が出て学校がお昼から休みになったことがあったけどしばらくすると、雨もやみ晴れてきたので遊びに行きたいなど、思うくらいでした。夏休み中にも、たい風による大雨洪水けい報が出て、この広島県と夜中でした。寝ていると雨と風の音が「ゴーゴー」となり、この時はさすがに少しこわいと思ったけど、いつの間にか寝てしまっていて起きた時には、落ち着いていました。この時の台風のために亡くなった人がいるというニュースもなかったし、家の外もいつもより少し木や葉っぱが落ちていたくらいでした。そんな大きな被害を経験したことのない私は、けい報が出ていつもそんなにこわくありません。私のように安心している人もたくさんいると思います。学校で地震や火災のひなん訓練も同じくまだまだ心の中で、訓練だから、や本当に地震がきてもそんなに火災がないだろうと安心していると思います。だから今まであまり一生けん命取り組めてなかったかもしれません。けれどこのニュースを見て、それをもっとしんけんに取り組まないといけないと思いました。

私が作文を書いている間も広島市の土砂災害のニュースがどんどん伝えられ、行方不明や亡くなった人がふえています。その中のニュースでボランティアの人たちの活動も伝えられ目に止まりました。二千人以上の人たちが来ていると伝えていました。ボランティアの人たちは、泥だらけになりながら現地の人たちと一緒に泥をのけたりがれきをのける作業をしていました。作業中にも大雨になったりとても暑くなったりしていても一生けん命に作業をしているボランティアの人たちの行動が心に残りました。私もボランティアにさんかして何か協力したいと思いましたが行って活動することはできないため、みんなが安全に作業できて、早く行方不明の人たちが見つかることをねがっています。

そして、このニュースを見て災害のおそろしさと、災害のせいで生きたくても亡くなってしまった人たちが多くいることを知りました。

この広島の土砂災害以外でも、地震や台風やつ波などの自ぜん災害で、いままでもたくさんの人たちの命がうばわれました。けれど、私たちはこの自ぜん災害を前もってとめることはできません。だから私は、今自分で何ができるか考えました。まずは、自分の命は自分で守る。私は、自分の命を大切にしたいです。そのためには、しっかり情報をよく聞いてき険に思わないといけません。今までよりひなん訓練には、しんけんに取り組み、ひなん場所やひなん経路もきちんと知っておこうと思います。また、他にも自分の命を守るためにできることは何かふだんから家族や学校の先生や友達ともしっかり話し合いをしておきたいと思います。